

非行少年の生活意識に関する研究（その2）

矯正協会附属中央研究所 大川 力
 瀧上 康幸*
 東京矯正管区 門本 泉**

キーワード：非行少年，生活意識，価値観

1 はじめに

前回の報告では非行少年の生活意識のうち、職業意識に注目して分析を行ったが、その際未来考慮尺度を指標として用いた。未来考慮尺度は、現在の行動を決定する際に、どの程度未来のことを考慮するかを測定するものである。その結果、働きたい職場、働く目的、自分の将来の生活目標、転職に対する考え方など、いろいろな角度から見た職業意識は、いずれも未来考慮によって左右されていることが明らかとなった。今回は引き続き生活観と価値観について報告する。

2 方法

調査の対象者や方法は前報告と同じであるが、ここでは主要な点だけを述べる。

(1) 調査対象者

全国の少年鑑別所に平成10年10月から約2か月間に観護措置決定により入所した少年のうち、鑑別判定を行った者で、有効な資料が得られたのは、男子1,654名、女子196名、合計1,850名である。

(2) 調査内容

職員用調査票 調査対象者の非行歴、家庭の状況など27項目について、鑑別担当職員に

記入を依頼した。

少年用調査票 次の5種類の質問から構成されたもので、集団または個別で記入させた。

- A 職業意識（勤労観・転職・希望の職場・将来の目標）に関するもの。
- B 生活観・価値観に関するもの。
- C 未来考慮尺度
- D 時間的信念尺度
- E その他

3 結果

(1) 生活観

生活観とは、日常生活についてどのように考えているかを聞いたもので、質問項目は、茅場ら（1991）から3項目、Berne, E.（1971）が無意識の人生計画のパターンとして挙げたリストから7項目を選び、合計10項目の生活観について、「そう思う」「時々そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4つの選択肢の中から1つを選択させた。

10項目の男女別と年齢別の肯定回答の率を表1に示した。10項目のうち、男子と女子で統計的に有意な差（有意傾向を含む）が認められたのは次の5つである（表2参照）。

男子の方が肯定回答の割合が高い項目

「成功を喜ぶよりも、もっと上を目指さなけ

*現新潟少年鑑別所

**現東京少年鑑別所

表1 生活観の男女別、年齢層別の肯定回答の割合

| | 男子 | | | | 女子 | | | |
|--------------------------------|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| | 全年齢 | 年少 | 中間 | 年長 | 全年齢 | 年少 | 中間 | 年長 |
| 今の状況が変わらなければ、自分は幸せになれない。 | 1255 (75.9) | 214 (77.3) | 582 (79.3) | 459 (71.4) | 159 (81.1) | 54 (80.6) | 68 (81.0) | 37 (82.2) |
| 楽しんだ後には、きっとつらいことが待っている。 | 1273 (77.0) | 219 (79.1) | 570 (77.7) | 484 (75.3) | 149 (76.0) | 53 (79.1) | 62 (73.8) | 34 (75.6) |
| 自分のやることは決してうまくいかない。 | 842 (50.9) | 148 (53.4) | 382 (52.0) | 312 (48.5) | 106 (54.1) | 40 (59.7) | 42 (50.0) | 24 (53.3) |
| どうして自分はいつもこんな目にあわなければならないのか。 | 871 (52.7) | 146 (52.7) | 392 (53.4) | 333 (51.8) | 96 (49.0) | 34 (50.7) | 41 (48.8) | 21 (46.7) |
| もう一步のところであまくいくはずだったのに。 | 802 (48.5) | 133 (48.0) | 355 (48.4) | 314 (48.8) | 93 (47.4) | 33 (49.3) | 42 (50.0) | 18 (40.0) |
| 成功をよるこぶよりも、もっと上を目指さなければいけない。 | 968 (58.5) | 139 (50.2) | 416 (56.7) | 413 (64.2) | 90 (45.9) | 28 (41.8) | 38 (45.2) | 24 (53.3) |
| 今やっていることが終わったら、何をしたらよいのか分からない。 | 373 (22.6) | 73 (26.4) | 182 (24.8) | 118 (18.4) | 27 (13.8) | 9 (13.4) | 14 (16.7) | 4 (8.9) |
| 世の中には自分しか信じるものがない。 | 280 (16.9) | 37 (13.4) | 130 (17.7) | 113 (17.6) | 53 (27.0) | 20 (29.9) | 15 (17.9) | 18 (40.0) |
| 自分は頼りにされている。 | 752 (45.5) | 98 (35.4) | 325 (44.3) | 329 (51.2) | 81 (41.3) | 23 (34.3) | 36 (42.9) | 22 (48.9) |
| 世の中の人はお互いに助け合っている。 | 1369 (82.8) | 225 (81.2) | 603 (82.2) | 541 (84.1) | 151 (77.0) | 50 (74.6) | 65 (77.4) | 36 (80.0) |
| 有効回答数 | 1654 | 277 | 734 | 643 | 196 | 67 | 84 | 45 |

(注) 肯定回答とは、「そう思う」「ときどきそう思う」に○をつけた者の割合を意味する。

ればいけない。」

「今やっていることが終わったら、何をしたらよいのか分からない。」

「世の中の人はお互いに助け合っている。」

女子の方が肯定回答の割合が高い項目

「今の状況が変わらなければ、自分は幸せになれない。」

「世の中には自分しか信じるものがない。」

次に、男女別に年齢層別に比較したところ、次の項目で差があった(表3, 4参照)。

年少群の方が年長群より肯定回答の割合が高い項目(男子)

「今の状況が変わらなければ、自分は幸せになれない」

「今やっていることが終わったら、何をしたらよいのか分からない」

年長群が他の2群より肯定回答の割合が高い

項目(男子)

「成功を喜ぶよりも、もっと上を目指さなければいけない」

「自分は頼りにされている」

なお、「自分は頼りにされている」は中間群が年少群よりも高い傾向が見られた。

一方、女子は、年齢による差は見られなかった。

(2) 価値観

価値観については、15の質問から成っており、それぞれについて、「賛成」「やや賛成」「どちらともいえない」「やや反対」「反対」の中から1つを選ばせた。この質問項目は、茅場ら(1991)と同一のものをを用い、継時的な比較が可能にした。

表5は、各質問項目に対する賛成率(総回

表2 生活観の男女別の分散分析

| | 性のF値 | 多重比較 |
|-------------------------------|-----------|------|
| 今の状況が変わらなければ、自分は幸せになれない。 | 3.592 † | 男<女 |
| 楽しんだ後には、きつとつらいことが待っている。 | 0.003 | |
| 自分のやることは決してうまくいかない。 | 1.982 | |
| どうして自分はいつもこんな目にあわなければならないのか。 | 0.003 | |
| もう一步のところであまくいくはずだったのに。 | 0.002 | |
| 成功をよるこぶよりも、もっと上を目指さなければいけない。 | 11.652 ** | 男>女 |
| 今やっていることが終わったら、何をしたらよいか分からない。 | 6.101 ** | 男>女 |
| 世の中には自分しか信じるものがない。 | 11.773 ** | 男<女 |
| 自分は頼りにされている。 | 1.794 | |
| 世の中の人はお互いに助け合っている。 | 5.957 * | 男>女 |

(注) **は1%水準, *は5%水準で有意であることを示す。†は10%の水準で有意な傾向を示す。

表3 生活観の年齢層別の分散分析（男子のみ）

| | 年齢層のF値 | 多重比較 |
|-------------------------------|----------|----------|
| 今の状況が変わらなければ、自分は幸せになれない。 | 6.805 ** | 年少>年長 |
| 楽しんだ後には、きつとつらいことが待っている。 | 0.830 | |
| 自分のやることは決してうまくいかない。 | 2.294 | |
| どうして自分はいつもこんな目にあわなければならないのか。 | 0.528 | |
| もう一步のところであまくいくはずだったのに。 | 0.162 | |
| 成功をよるこぶよりも、もっと上を目指さなければいけない。 | 6.524 ** | 年少<年長 |
| 今やっていることが終わったら、何をしたらよいか分からない。 | 4.517 ** | 年少>年長 |
| 世の中には自分しか信じるものがない。 | 0.932 | |
| 自分は頼りにされている。 | 7.985 ** | 年少<中間<年長 |
| 世の中の人はお互いに助け合っている。 | 1.387 | |

(注) **は1%水準で有意であることを示す。

表4 生活観の年齢層別の分散分析（女子のみ）

| | 年齢層のF値 | 多重比較 |
|-------------------------------|--------|------|
| 今の状況が変わらなければ、自分は幸せになれない。 | 0.627 | |
| 楽しんだ後には、きつとつらいことが待っている。 | 0.064 | |
| 自分のやることは決してうまくいかない。 | 0.180 | |
| どうして自分はいつもこんな目にあわなければならないのか。 | 0.673 | |
| もう一步のところであまくいくはずだったのに。 | 0.140 | |
| 成功をよるこぶよりも、もっと上を目指さなければいけない。 | 0.051 | |
| 今やっていることが終わったら、何をしたらよいか分からない。 | 1.927 | |
| 世の中には自分しか信じるものがない。 | 2.448 | |
| 自分は頼りにされている。 | 1.457 | |
| 世の中の人はお互いに助け合っている。 | 0.529 | |

答数に対する「賛成」と「やや賛成」の合計数の比率), 反対率(総回答数に対する「反対」と「やや反対」の合計数の比率)を男女別, 年齢層別に示したものである。また, 性

差や年齢差による回答の違いを検討するため, 「賛成」を5点, 「やや賛成」を4点, 「どちらともいえない」を3点, 「やや反対」を2点, 「反対」を1点として得点化し, 性と

年齢層の2要因について分散分析及び多重比較(LSD法)を行なった。その結果は表6に示した。

ア 性別との関連

性別について統計的に有意な差が認められたのは、以下の6項目であった。

男子の方が賛成の回答の割合が高い項目

「年上や目上の人には従うべきだ」

「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

「周りから何か言われぬように、目立たぬようにする方がよい」

「悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい」

「義理人情を大切にすべきだ」

女子の方が賛成の回答の割合が高い項目

「こつこつ努力するよりは、毎日の生活を楽しく過ごせる方がよい」

表5 価値観の男女別、年齢層別の肯定回答の割合

| | 男子 | | | | 女子 | | | |
|-------------------------------------|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| | 計 | 年少 | 中間 | 年長 | 計 | 年少 | 中間 | 年長 |
| ひとつのことに熱中するよりも、色々なことをやってみるべきだ。 | 511 (30.9) | 198 (71.5) | 515 (70.2) | 430 (66.9) | 136 (69.4) | 51 (76.1) | 57 (67.9) | 28 (62.2) |
| 年上と目上の人には従うべきだ。 | 887 (53.6) | 149 (53.8) | 385 (52.5) | 353 (54.9) | 80 (40.8) | 30 (44.8) | 32 (38.1) | 18 (40.0) |
| こつこつ努力するよりは、毎日を楽しく過ごせるほうがよい。 | 622 (37.6) | 144 (52.0) | 285 (38.8) | 193 (30.0) | 88 (44.9) | 33 (49.3) | 40 (47.6) | 15 (33.3) |
| 自分の意見と違っていても、多数の意見には従うべきだ。 | 467 (28.2) | 96 (34.7) | 205 (27.9) | 166 (25.8) | 48 (24.5) | 14 (20.9) | 26 (31.0) | 8 (17.8) |
| 人のことには、あまりかかわらない方がよい。 | 477 (28.8) | 85 (30.7) | 212 (28.9) | 180 (28.0) | 54 (27.6) | 20 (29.9) | 9 (10.7) | 15 (33.3) |
| 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。 | 963 (58.2) | 160 (57.8) | 420 (57.2) | 383 (59.6) | 70 (35.7) | 24 (35.8) | 32 (38.1) | 14 (31.1) |
| 世の中は、なるようにしかならないものだ。 | 502 (30.4) | 80 (28.9) | 234 (31.9) | 188 (29.2) | 67 (34.2) | 23 (34.3) | 29 (34.5) | 15 (33.3) |
| まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人のほうが好きだ。 | 1190 (71.9) | 201 (72.6) | 532 (72.5) | 457 (71.1) | 148 (75.5) | 50 (74.6) | 71 (84.5) | 27 (60.0) |
| 周りから何か言われぬように、目立たぬようにするほうがよい。 | 318 (19.2) | 60 (21.7) | 154 (21.0) | 102 (15.9) | 30 (15.3) | 15 (22.4) | 10 (11.9) | 5 (11.1) |
| 悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい。 | 739 (44.7) | 135 (48.7) | 342 (46.6) | 262 (40.7) | 69 (35.2) | 26 (38.8) | 33 (39.3) | 10 (22.2) |
| 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい。 | 610 (36.9) | 106 (38.3) | 284 (38.7) | 220 (34.2) | 65 (33.2) | 20 (29.9) | 35 (41.7) | 10 (22.2) |
| 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方ないことだ。 | 205 (12.4) | 51 (18.4) | 79 (10.8) | 75 (11.7) | 27 (13.8) | 11 (16.4) | 12 (14.3) | 4 (8.9) |
| 義理人情を大切にすべきだ。 | 1198 (72.4) | 163 (58.8) | 522 (71.1) | 513 (79.8) | 101 (51.5) | 25 (37.3) | 45 (53.6) | 31 (68.9) |
| 努力するよりも、その場その場でうまくふるまう方がよい。 | 244 (14.8) | 69 (24.9) | 113 (15.4) | 62 (9.6) | 37 (18.9) | 17 (25.4) | 14 (16.7) | 6 (13.3) |
| リーダーになって苦労するよりは、人に従っているほうが気楽でよい。 | 340 (20.6) | 59 (21.3) | 158 (21.5) | 123 (19.1) | 31 (15.8) | 8 (11.9) | 18 (21.4) | 5 (11.1) |
| 有効回答 | 1654 | 277 | 734 | 643 | 196 | 67 | 84 | 45 |

(注) 肯定回答とは、「賛成」+「やや賛成」の計である。

表6 価値観の男女別、年齢層別の分散分析および多重比較

| | 男女別のF値 | 年齢層のF値 | 交互作用 | 多重比較 |
|-------------------------------------|-----------|-----------|-------|---------------|
| ひとつのことに熱中するよりも、色々なことをやってみるべきだ。 | 0.002 | 2.023 | 0.070 | |
| 年上と目上の人には従うべきだ。 | 9.156 ** | 0.098 | 0.898 | 男>女 |
| こつこつ努力するよりは、毎日を楽しく過ごせるほうがよい。 | 3.500 | 8.055 ** | 0.919 | 男<女, 年少>中間>年長 |
| 自分の意見と違っていても、多数の意見には従うべきだ。 | 1.317 | 0.987 | 0.032 | |
| 人のことには、あまりかかわらない方がよい。 | 0.000 | 1.453 | 0.359 | |
| 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。 | 52.305 ** | 0.414 | 0.159 | 男>女 |
| 世の中は、なるようにしかならないものだ。 | 2.502 | 2.151 | 0.318 | |
| まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人のほうが好きだ。 | 0.268 | 2.349 | 0.906 | |
| 周りから何かいわれないように、目立たないようにするほうがよい。 | 4.698 * | 3.752 * | 1.381 | 男>女, 年少>中間>年長 |
| 悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい。 | 1.450 ** | 5.080 ** | 1.257 | 男>女, 年少>中間>年長 |
| 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい。 | 0.210 | 4.476 ** | 2.043 | 年少>中間>年長 |
| 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方ないことだ。 | 1.029 | 3.119 * | 0.729 | 年少>中間>年長 |
| 義理人情を大切にすべきだ。 | 15.484 ** | 11.803 ** | 0.136 | 男>女, 年少<中間<年長 |
| 努力するよりも、その場その場でうまくふるまう方がよい。 | 0.117 | 1.391 ** | 0.245 | 年少>中間>年長 |
| リーダーになって苦労するよりは、人に従っているほうが気楽でよい。 | 2.409 | 2.023 | 0.342 | |

(注) ** は1%水準, * は5%水準で有意であることを示す。

イ 年齢との関連

次に、年齢について統計的に有意な差が認められたのは、以下の7項目であった。

年齢が低いほど、賛成の回答の割合が高い項目

「こつこつ努力するよりは、毎日の生活を楽しく過ごせる方がよい」

「周りから何か言われないように、目立たないようにする方がよい」

「悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい」

「世の中全体の事を考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」

「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方ないことだ」

「努力するよりも、その場その場でうまくふるまう方がよい」

年齢が高いほど、賛成の回答の割合が高い項目

「義理人情を大切にすべきだ」

ウ 非行性との関連

次に非行の進み具合と価値観にどのような

関連がみられるかについて検討を行った。非
 行性の指標としては鑑別判定、少年鑑別所入
 所歴を用いた。鑑別判定は在宅保護・収容保
 護の2群で分析し、少年鑑別所入所歴は初
 入・再入の2群で分析した。

表7は、価値観に関する各質問項目に対す
 る賛成の割合と反対の割合を男女別・鑑別判
 定別に示したものである。鑑別判定（在宅保

護・収容保護）について、統計的に有意な差
 が認められたのは、以下の3項目であった。

在宅保護判定群で賛成の割合が高い項目

「年上や目上の人には従うべきだ」（男子
 のみ有意差あり）

収容保護判定群で賛成の割合が高い項目

「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」
 （男子のみ有意差あり）

表7 価値観の男女別、鑑別判定別の肯定回答の割合

| | 男子 | | | | 女子 | | | |
|---|----------------|---------------|---------------|----------|---------------|--------------|--------------|----------|
| | 全年齢 | 在宅 | 収容 | χ^2 | 全年齢 | 在宅 | 収容 | χ^2 |
| ひとつのことに熱中するよりも、 色々なことをやってみるべきだ。 | 1061 (68.9) | 441 (67.2) | 620 (70.1) | 1.546 | 120 (69.4) | 59 (71.1) | 61 (67.8) | 2.046 |
| 年上と目上の人には従うべきだ。 | 828 (53.9) | 383 (58.6) | 445 (50.4) | 10.325** | 71 (41.3) | 30 (36.1) | 41 (46.1) | 1.815 |
| こつこつ努力するよりは、毎日を楽 しく過ごせるほうがよい。 | 576 (37.2) | 244 (37.2) | 332 (37.6) | 2.199 | 77 (44.5) | 39 (47.0) | 38 (42.2) | 1.011 |
| 自分の意見と違っていても、多数の 意見には従うべきだ。 | 436 (28.4) | 182 (27.8) | 254 (28.8) | 0.210 | 46 (26.6) | 20 (24.1) | 26 (28.9) | 1.840 |
| 人のことには、あまりかかわらない 方がよい。 | 439 (28.6) | 188 (28.7) | 251 (28.5) | 1.277 | 48 (27.7) | 27 (32.5) | 21 (23.3) | 1.998 |
| 男は外で働き、女は家庭を守るべき だ。 | 903 (58.6) | 350 (53.4) | 553 (62.5) | 12.987** | 59 (34.1) | 27 (32.5) | 32 (35.6) | 0.177 |
| 世の中は、なるようにしかならない ものだ。 | 468 (30.4) | 196 (30.0) | 272 (30.8) | 0.231 | 61 (35.3) | 30 (36.1) | 31 (34.4) | 0.314 |
| まじめな人よりも、ひょうきんにふ るまう人のほうが好きだ。 | 1109 (72.1) | 466 (71.1) | 643 (72.7) | 0.717 | 131 (75.7) | 68 (81.9) | 63 (70.0) | 4.359 |
| 周りから何かいわれないように、目 立たないようにするほうがよい。 | 299 (19.5) | 128 (19.6) | 171 (19.4) | 0.149 | 26 (15.1) | 12 (14.6) | 14 (15.6) | 0.755 |
| 悪者をやっつけるためなら、場合によ っては暴力をふるってもよい。 | 683 (44.4) | 297 (45.3) | 386 (43.7) | 2.329 | 61 (35.3) | 23 (27.7) | 38 (42.2) | 9.493 * |
| 世の中全体のことを考えるよりも、 自分のしたいことをする方がよい。 | 566 (36.8) | 246 (37.6) | 320 (36.2) | 1.298 | 57 (32.9) | 26 (31.3) | 31 (34.4) | 0.730 |
| 自分のやりたいことをやりぬくた めには、ルールを破るのも仕方な いことだ。 | 190 (12.4) | 76 (11.6) | 114 (12.9) | 1.589 | 24 (13.9) | 7 (8.4) | 17 (18.9) | 3.974 |
| 義理人情を大切にすべきだ。 | 114 (72.8) | 475 (72.9) | 639 (72.7) | 0.366 | 91 (54.2) | 44 (54.3) | 47 (54.0) | 0.566 |
| 努力するよりも、その場その場でう まくふるまう方がよい。 | 226 (14.7) | 92 (14.1) | 134 (15.2) | 0.802 | 32 (18.5) | 13 (15.7) | 19 (21.1) | 0.853 |
| リーダーになって苦勞するよりは、 人に従っているほうが気楽でよい。 | 319 (20.7) | 134 (20.4) | 185 (20.9) | 0.179 | 28 (16.2) | 11 (13.3) | 17 (18.9) | 3.125 |
| 有効回答数 | 1540 | 656 | 884 | | 173 | 83 | 90 | |

(注) ** は1%水準、* は5%水準で有意であることを示す。

鑑別判定において、保護観察及び少年院送致以外のものは分析から除外した。

表8 価値観の男女別、少年鑑別所入所歴別の肯定回答の割合

| | 男子 | | | | 女子 | | | |
|-------------------------------------|----------------|---------------|---------------|----------|---------------|---------------|--------------|----------|
| | 合計 | 初入 | 再入 | χ^2 | 合計 | 初入 | 再入 | χ^2 |
| ひとつのことに熱中するよりも、色々なことをやってみるべきだ。 | 1143 (69.1) | 870 (68.8) | 273 (70.0) | 2.261 | 136 (69.4) | 110 (66.7) | 26 (83.9) | 4.012 |
| 年上と目上の人には従うべきだ。 | 887 (53.7) | 685 (54.3) | 202 (51.8) | 1.860 | 80 (41.0) | 66 (40.2) | 14 (45.2) | 0.265 |
| こつこつ努力するよりは、毎日を楽しく過ごせるほうがよい。 | 622 (37.6) | 496 (39.3) | 126 (32.2) | 12.208** | 88 (44.9) | 76 (46.1) | 12 (38.7) | 2.835 |
| 自分の意見と違っても、多数の意見には従うべきだ。 | 467 (28.3) | 366 (29.0) | 101 (25.8) | 1.562 | 48 (24.5) | 39 (23.6) | 9 (29.0) | 0.546 |
| 人のことには、あまりかかわらない方がよい。 | 477 (28.9) | 355 (28.2) | 122 (31.3) | 1.469 | 54 (27.6) | 42 (25.5) | 12 (38.7) | 3.852 |
| 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。 | 963 (58.2) | 709 (56.1) | 254 (65.0) | 11.641** | 70 (35.7) | 57 (34.5) | 13 (41.9) | 9.650** |
| 世の中は、なるようにしかならないものだ。 | 502 (30.4) | 387 (30.7) | 115 (29.4) | 3.772 | 67 (34.4) | 56 (33.9) | 11 (36.7) | 0.108 |
| まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人のほうが好きだ。 | 1190 (72.0) | 929 (73.6) | 261 (66.8) | 8.357* | 148 (75.5) | 131 (79.4) | 17 (54.8) | 9.010* |
| 周りから何かいわれないように、目立たないようにするほうがよい。 | 318 (19.3) | 238 (18.9) | 80 (20.6) | 10.522** | 30 (15.4) | 27 (16.5) | 3 (9.7) | 7.373* |
| 悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい。 | 739 (44.7) | 579 (45.9) | 160 (40.9) | 4.312 | 69 (35.2) | 59 (35.8) | 10 (32.3) | 1.762 |
| 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい。 | 610 (36.9) | 477 (37.8) | 133 (34.0) | 8.057* | 65 (33.2) | 52 (31.5) | 3 (41.9) | 4.581 |
| 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方ないことだ。 | 205 (12.4) | 161 (12.8) | 44 (11.3) | 3.378 | 27 (13.8) | 20 (12.1) | 7 (22.6) | 4.137 |
| 義理人情を大切にすべきだ。 | 1198 (72.8) | 912 (72.6) | 286 (73.7) | 2.705 | 101 (53.2) | 83 (52.2) | 18 (58.1) | 1.054 |
| 努力するよりも、その場その場でうまくふるまう方がよい。 | 244 (14.8) | 190 (15.1) | 54 (13.9) | 9.534** | 37 (18.9) | 32 (19.4) | 5 (16.1) | 0.207 |
| リーダーになって苦労するよりは、人に従っているほうが気楽でよい。 | 340 (20.6) | 263 (20.8) | 77 (19.7) | 5.307 | 31 (15.8) | 27 (16.4) | 4 (12.9) | 0.849 |
| 有効回答数 | 1654 | 1314 | 340 | | 196 | 165 | 31 | |

(注) ** は1%水準、* は5%水準で有意であることを示す。
 ※ 賛成の割合には差がなかったものの、反対の割合は、再入群のほうが有意に高かった。

「悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい」（女子のみ有意差あり）

次に、男女別、少年鑑別所入所歴別について見たのが表8で、価値観に関する各質問項目に対する賛成率と反対率を男女別・少年鑑別所入所歴別に示したものである。少年鑑別所入所歴の初入・再入別で、統計的に有意な

差が認められたのは、以下の4項目であった。
初入群で賛成の回答の割合が高い項目

「こつこつと努力するよりは、毎日の生活を楽しく過ごせるほうがよい」（男子のみ有意差あり）

再入群で賛成の回答の割合が高い項目

「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」
 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるま

う人の方が好きだ」

「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」（男子のみ有意差あり）

再入群で反対の回答の割合が高い項目

「周りから何かいわれないように、目立たないようにするほうがよい。」

「努力するよりも、その場その場でうまくふるまう方がよい。」

4 考察

(1) 生活観

性差についてみると、社会を意識した項目では、男子の方が女子よりも高く、現在の状況への悲観、世間への不信感などは女子の方が男子よりも高くなっている。また、年齢差については、年少群は自分から積極的に環境条件を変えようとする意欲に乏しかったり、社会的な未熟さを示していると考えられ、その底には不安定感や無力感が潜んでいるとも考えられる。一方、年長群は責任感や社会の現実を知るようになり、承認欲求や上昇指向が強まっている状態を反映していると考えられる。

(2) 価値観

まず性差については、男子の賛成率が高い項目は、「年上や目上の人には従うべきだ」

「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」「義理人情を大切にすべきだ」など、いずれも伝統的価値観というべきものである。また、「悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい」は、力に重きを置こうとする考え方である。したがって、男子は伝統的な価値観や力による支配に重きを置こうとする価値観があることを示している。

一方、男子の賛成率が高い「周りから何かいわれないように、目立たないようにする方がよい」や、女子の賛成率が高い「こつこつ

努力するよりは、毎日の生活を楽しく過ごせる方がよい」については、どちらも生活態度としては消極的であり、一般的に見ればこの年齢層にはそぐわない考え方だとも言えるが、性差についての意味付けは難しい。あるいは、対象者に薬物犯が多いということが影響しているものとも考えられる。

次に年齢による差についてみると、年齢が高いほど賛成率が高い項目は「義理人情を大切にすべきだ」のみである。年少群の5割近くが「どちらともいえない」と回答しているが、義理人情という言葉自体あまり使われなくなっており、年少群に言葉の意味がわからなかった者が少なからずいたのではないかとも考えられる。

年齢が低いほど賛成の回答の割合が高い項目は、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破ることも仕方のないことだ」、「悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい」「周りから何かいわれないように、目立たないようにする方がよい」など、自己中心的な考え方が強いことを示している。また、「こつこつ努力するよりは、毎日の生活を楽しく過ごせる方がよい」「努力するよりも、その場その場でうまくふるまう方がよい」など、年齢が低い者ほど、努力を嫌う傾向が見られる。

なお、茅場ら(1991)が行った同一質問項目の調査でも、同様の年齢差が認められており、比較的早期に非行に走った少年に共通する価値観とも考えられる。

非行性に関する項目のうち、鑑別判定と価値観では、在宅保護と判定された者に賛成の回答の割合が高い項目は、男子の「年上や目上の人には従うべきだ」のみであった。大人の指導に従うという構えを持つ方が在宅保護の判定を受けやすいことを示している。一方、収容保護と判定された者に賛成の回答の割合

が高かった項目は、男子では「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」、女子では「悪者をやっつけるためなら、場合によっては暴力をふるってもよい」のみであった。非行性が進んでいる者ほど、伝統的な価値観に対して肯定的な構えが見られることや、女子に関して、非行が進むほど粗暴な行為を容認する傾向が強まるというのは、茅場ら(1991)の指摘と一致している。

次に、少年鑑別所入所歴により初入群と再入群に分けた場合、初入群の賛成の回答の割合が高かった項目は、男子の「こつこつと努力するよりは、毎日の生活を楽しく過ごせる方がよい」のみである。この項目は、年齢が低いほど賛成の回答の割合が高い項目であるので、年少群でも初入群の方が賛成の回答の割合は高かった。

また、再入群で反対の回答の割合が高かった項目は、「周りから何かいわれないように、目立たないようにするほうがよい。」「努力するよりも、その場その場でうまくふるまう方がよい。」であった。初入群よりも再入群のほうが、努力するべきだ、という回答をしていた。

5 おわりに

生活観については男子と女子との比較では、社会一般についての見方で女子の方により問題性が認められ、価値観については、性差や年齢差について、先行研究とおおむね一致する結果が得られた。また、価値観については、非行性との間で関連が一部見出された。ただ今回の生活観や価値観に関する調査は、網羅的なものではないし、これだけで決定的な結論を出すことはできない。また、非行性についてもごく限られた指標で見たものであり、今後より詳細な検討が必要である。

今回の研究では、未来考慮尺度と時間的信念尺度についても検討する予定であったが、

前回の報告で一部報告したものの、今回は十分に検討することができなかった。また別の機会に両尺度の基礎的検討と、生活意識との関連について報告したいと考えている。

参考文献

- Berne, E. 1971 *Sex in human living* Simon & Schuster, N. Y.
- 茅場薫・山口悦照・坪内宏介・浜孝明・小坂清文・遊間義一・西田太郎 1991 非行少年の生活・価値観に関する研究（第1報告）法務総合研究所研究部紀要34
- 大川力・瀧上康幸・門本泉 1999 非行少年の生活意識に関する研究（その1）中央研究所紀要第9号